

しもいた
⑥下板 〈千代田町〉

人口 137 人、世帯数 41 世帯

私たちの地区は、以前、神水川と呼んでいましたが、昭和 30 年の合併の頃から下板と呼ぶようになりました。年配の方は、「シオイガフ」といえば納得される方が、かなりおられます。

日本武尊を祭神とする櫛田神明神（白角折神社、櫛田宮、高志神社）の東を流れる馬場川の最終地点にあたるのが下板です。

私たちの地区も行事をいろいろ催していましたが、少子化のため大変です。現在は、老人クラブと一緒に花づくりに励んでいます



▲公民館前の手作り花壇

さんちようめ
⑤三丁目 〈神埼町〉

人口 272 人、世帯数 119 世帯

三丁目は、櫛田宮の門前町商店街であり、神埼町の中心部として長らく栄えてきました。長崎街道の神埼宿や役所のあった土地柄で、歴史探訪もできます。

三丁目商店街では、毎年夏の祇園祭に併せて行われる「櫛田通り歩行者天国夜市」、2年に一度行われる「みゆき大祭」では、身動きが取れないほどの賑わいを見せます。

現在は、車社会となり道行く人の姿は、往時の賑わいはありませんが、地域に居住している私たちは、相変わらず元気でがんばっています。商店街もご利用ください。



▲賑わいをみせる夜市

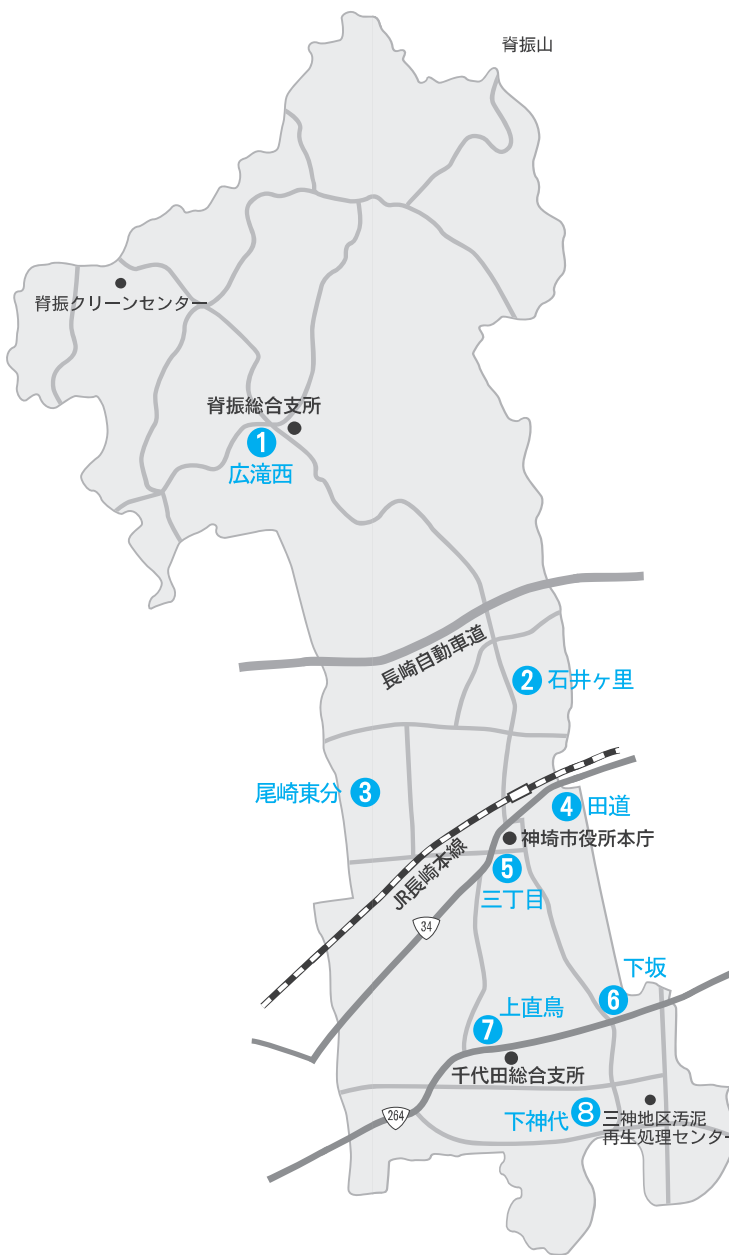
地区紹介 ③



市民相互の理解と融和を図るため、市内121地区（神埼：63地区、千代田：49地区、脊振：9地区）を紹介しています。

今回は、8地区を紹介します。

※人口、世帯数は、平成20年4月末の住民基本台帳のデータです



いしいがり
②石井ヶ里 〈神埼町〉

人口 401 人、世帯数 125 世帯

江戸時代末期に石井苅村、明治 2 年の行政変遷で鶴村の石井苅、明治 22 年の町村制施行のときには、仁比山村石井ヶ里と呼ばれるようになりました。

城原川の東側に位置し、天災異変に悩まされ、昭和 28 年の大水害のときは、全農家が浸水、農地は、堤防の決壊で田畑は流出、復旧作業の毎日でした。

地区行事では、健康増進と親睦融和を図るため、グラウンドゴルフ大会やウォーキング、子どもクラブと老人クラブの触れ合いで七夕祭、しめ縄作りなどを行っています。



▲老人クラブと子どもクラブの交流

ひろたきにし
①広滝西 〈脊振町〉

人口 250 人、世帯数 78 世帯

広滝西は、脊振町の中心部に位置し、県道三瀬神埼線と平行して城原川が区内を縦断しています。

地区内には、100 円宅地であるリバーサイド池の平があり、その東側の河川は、川のそばまで降りることができるよう整備されているので、川遊びを楽しむことができる住民の憩いの場となっています。

また、川には、たくさんの蛭が生息し、特に 6 月下旬から 7 月にかけては、川面に映える幻想的な光を放し、近くに住む人々の目を楽ませてくれます。



▲住民のくつろぎの場である城原川

しもこうたい
⑧下神代 〈千代田町〉

人口 223 人、世帯数 65 世帯

下神代は、市の南部にあり、田手川の下流域にあります。地区名の由来は、江戸時代に島原の神代から鍋島家に嫁いで来たお姫様にこの地区が化粧田として与えられたことから名づけられたといわれています。島原には、現在も「神代」の地名が残っていますが、呼び方は「こうじろ」といいます。

主な行事は、4 月の地区民総出のお祭り、グラウンドゴルフ大会、7 月の豆祇園、二十日恵比寿さん、9 月の敬老会などです。特に、豆祇園と二十日恵比寿さんは、子どもたちが主体になって行なう伝統行事です。



▲地区住民の交流～グラウンドゴルフ大会～

かみなおとり
⑦上直鳥 〈千代田町〉

人口 493 人、世帯数 153 世帯

私たちの地区は、千代田町の中央部に位置し、集落内には中世の面影を残す「直鳥環濠集落」があります。昭和 50 年代より混住化が進み、当初からの住民と新しい住民がほぼ半々となっています。

地区内での交流は盛んで、親睦グラウンドゴルフ大会や「ご誕生日」おこもり、農地・水・環境保全事業で水草除去や市道の草刈作業、環濠集落周辺および休耕田に公民館・老人クラブ・子どもクラブによるコスモスの作付けなどを行い、環境保全と美化活動に地区住民全員で取り組んでいます。



▲地域で取り組む農地・水・環境保全事業

たみち
④田道 〈神埼町〉

人口 363 人、世帯数 123 世帯

田道地区は、神埼市の東部に位置し、中央を旧長崎街道が横断しています。街道筋には、ひのはしら一里塚が昔の面影をしのばせています。

この一里塚の頂上には、地蔵尊が祀られており、地蔵尊は、「イボ」に良く効くと言われ、地元はもとより、遠方から、お参りに来る人が絶えません。

数年前の台風、地震により、石垣が崩落しましたが、現在では、安全に登り降りできるよう修復され、手すりが付けられています。

また、夏には、昔から子どもによる「千燈ろう祭り」が行われ、現在も続いています。



▲イボに良く効くという地藏尊

おさきひがしぶん
③尾崎東分 〈神埼町〉

人口 274 人、世帯数 76 世帯

地区の伝統行事は、櫛田宮みゆき大祭(2年に一度)で行われる太神楽で、尾崎東分と尾崎西分が交互に行います。昭和 41 年に県の重要無形民俗文化財に指定されました。

太神楽の曲目「道行き」では、途中の家々の門口にて邪気をはらう所作、「橋かがり」では、ししの激しい動き、「神の前」では、厳かに舞い、「うたんじ」では、めずりが獅子をあやつり変化に富んだ舞を披露します。

最近では、子どもが減ってきていますが、大人も協力して文化財保護のためがんばっていきたくと思います。



▲ささらの子どもたち